

J-2

お台場海浜公園における利用者の年齢層から見た利用傾向に関する研究
Study on utilization trends as seen from the age of the user in the Odaiba Seaside Park

○鈴木直¹, 畔柳昭雄², 坪井塑太郎³

*Nao Suzuki¹, Akio Kuroyanagi², Sotaro Tsuboi³

Abstract: In recent years, Seaside Park has attracted the interest of the urban population as a space with a hydrophilic property. This study, he was with the aim of targeting Odaiba Seaside Park in it, to capture the activities of users, to clarify the use of the current trend. As a result, the "young people" tend to use many secondary use from surrounding facilities, such as "stop casually", activities related to the water occupies the top, "aged", "middle-aged" is increasing age with, I found that there is a tendency to use touch directly or indirectly to the waterside.

1. はじめに

近年、都市臨海部において海浜公園や港湾緑地など、親水性を伴う空間が都市住民の関心を集めている。

そのため、東京都では、海の森公園や有明親水海浜公園等を新たに計画決定し、開園に向けた整備を進めている。こうした海上公園は現在 40ヶ所あり、多くの都市住民がやすらぎを感じる水辺として利用している。

そこで本稿では、お台場海浜公園（以下お台場とする）を対象として、利用者の活動内容を捉えることで、現状の海上公園における利用傾向を明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

調査対象地を Figure 1 に示す。アンケート調査は、対象地を 7 分割し、各所に調査員を 2 名配置し、行った。調査概要及び質問項目の概要を Table 1 に示す。

3. 結果及び考察

3-1. 利用傾向

利用者の全体的な傾向を把握するため、利用者属性を集計したものを Table 2 に示す。「年齢層」は、「青年層（18～29 歳）」、「中年層（30～49 歳）」で約 80% を占めており、「高年層（50 歳以上）」が 20% 程と他の年齢層と比べ、少ないことがわかる。「職業」は、「会社員」の利用が 6 割以上を占めており、次いで「学生」「専業主婦」で、11%、9.4% と続く。次に、「人数」を見ると「2 人」での利用が約半数を占めており、「1 人」の利用が 20% 程であった。「来訪構成」は、「知人・友人」との利用が 35.2% と最も多く、「1 人」、「家族（子供連れ）」、「家族」の利用が共通して 20% 程である。「利用頻度」は、「(年に)1 回」で 42% と最も多く、「(年に) 2 回」「(年に) 3 回」が 16%、11% と続く。

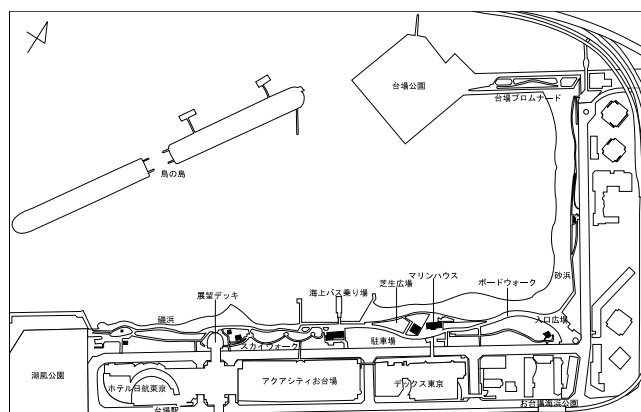


Figure 1. Study Area

Table 1. Outline of the study

調査項目	調査概要	
調査対象地	お台場海浜公園	
調査対象者	調査対象公園の利用者(18歳以上)	
調査実施方法	アンケート表による面接調査法	
標本抽出方法	無作為抽出(系統抽出法)	
サンプル数	合計500通	
調査期間	2011年7月30日(土)～8月14日(日) 9～17時(合計8時間)	
質問項目	回答者の属性	性別、年齢、職業、居住地
	利用状況	来訪回数、利用人数、同伴者、交通手段、所要時間、滞在時間、来園時間
	総合評価項目	総合満足度、再来訪希望度
	総体的評価項目	やすらぎ、解放感など18項目に対する感受度
	個別評価項目	水の触れやすさ、水への近づきやすさなど24項目に対する満足度
	親水活動	水辺での具体的な46項目の活動内容
	自宅周辺環境評価項目	身近な自然環境の有無、性質、利用度
追跡調査	年齢別に計測	

Table 2. Subjects attribute

項目	人	%	項目	人	%	項目	人	%			
性別	男性	326	65.2	来訪頻度	1回	208	41.6	来訪構成	1人	95	19.0
	女性	174	34.8		2回	78	15.6		2人	240	48.0
年齢	20代未満	26	5.2		3回	53	10.6		3人	82	16.4
	20歳代	171	34.2		4回	24	4.8		4人	45	9.0
	30歳代	101	20.2		5回	17	3.4		5人以上	38	7.6
	40歳代	95	19.0	6～10回	29	5.8	1人	95	19.0		
	50歳代	60	12.0	月に1回位	17	3.4	家族(子供連れ)	97	19.4		
	60歳代以上	47	9.4	月に2回位	9	1.8	家族	102	20.4		
職業	会社員・公務員	315	63.0	週に1回位	22	4.4	知人友人	176	35.2		
	自由業	37	7.4	週に2回位	8	1.6	その他	28	5.6		
	専業主婦	47	9.4	週に3回位	9	1.8					
	学生	55	11.0	ほとんど毎日	26	5.2					
	その他	46	9.2								

3-2. 活動内容の傾向

お台場における利用者の活動内容を回答数の多い順に並べたものを Table 3 に示す。「散歩」は、全回答者に対する割合が 63.6% であった。次いで「水を眺める」「何気なく立ち寄る」で、29.2%、26.2% と続く。

1 : 日大理工・院 (前)・海建 Graduate School, Nihon-U.

2 : 日大理工・教員・海建 Prof, CST, Nihon-U., Dr. Eng. 3 : 日大理工・教員・海建 Assistant Prof, CST, Nihon-U., Ph. D.

3-3. 年齢層別でみた活動内容

年齢層別による活動内容を把握するため、年齢層別で 10%以上の回答が得られた項目を抽出したものを Table 4 に示す。各年齢層共通して、「何気なく立ち寄る」「散歩」「水を眺める」が上位を占めている。また、「青年層」は、「ついでに立ち寄る」が高い割合を示しており、二次的な来訪利用と考えられる。「中年層」では、「子供と遊ぶ」「水遊び」の割合が高く、家族（子供連れ）で公園を利用していることが活動内容に影響していると考えられる。「高年層」では、「風景を見る」「休憩」「水辺でぼんやり」が高い割合となっており、利用者が水辺のもたらす心理的効果を高く認識し、活動内容に影響していると考えられる。

Table 3. Activity trend

活動内容	人数	%	活動内容	人数	%	活動内容	人数	%	活動内容	人数	%
散歩	318	63.6	食事をする	47	9.4	日光浴・日焼け	19	3.8	サイクリング	7	1.4
水を眺める	146	29.2	水遊び	44	8.8	砂遊び	17	3.4	野鳥を見る	6	1.2
何気なく立ち寄る	131	26.2	子供と遊ぶ	36	7.2	夜景を見る	17	3.4	植物をみる	5	1.0
ついでに立ち寄る	107	21.4	自然に触れる	36	7.2	昼寝	16	3.2	ウインドサーフィン	4	0.8
休憩	96	19.2	夕涼み	34	6.8	釣り	14	2.8	花火	4	0.8
水辺でぼんやり	93	18.6	その他	33	6.6	旅行の一環	13	2.6	バーベキュー	3	0.6
風景を見る	88	17.6	海上バスに乗る	29	5.8	ドライブ	10	2.0	サッカー	3	0.6
おしゃべり	67	13.4	通り抜け	22	4.4	ピクニック	9	1.8	昆虫を見る	2	0.4
デート	66	13.2	船を見る	20	4.0	ジョギング	9	1.8	宿泊	2	0.4
写真を撮る	61	12.2	考え事	19	3.8	読書	7	1.4	写生	1	0.2

Table 4. Another activity trend in each age group

青年層	人数	%	中年層	人数	%	高年層	人数	%
散歩	125	63.5	散歩	46	61.7	散歩	72	67.3
何気なく立ち寄る	72	36.5	水を眺める	45	23.0	水を眺める	40	37.4
水を眺める	60	30.5	何気なく立ち寄る	45	23.0	風景を見る	21	19.6
ついでに立ち寄る	51	25.9	ついでに立ち寄る	41	20.9	休憩	20	18.7
水辺でぼんやり	47	23.9	風景を見る	30	15.3	水辺でぼんやり	17	15.9
休憩	47	23.9	子供と遊ぶ	29	14.8	ついでに立ち寄る	15	14.0
おしゃべり	43	21.8	水辺でぼんやり	29	14.8	何気なく立ち寄る	14	13.1
デート	39	19.8	休憩	27	13.8	写真を撮る	13	12.1
風景を見る	37	18.8	水遊び	27	13.8	食事をする	11	10.3
写真を撮る	29	14.7	デート	22	11.2			

3-4. 年齢層別に見た活動範囲

各年齢層別に活動内容が活動範囲にどのように影響するかを把握するため、年齢層別に利用者の活動動線(追跡)を捉えたものを Figure 2 に示す。その結果、「青年層」では、周辺施設から「何気なく立ち寄る」や「水を眺める」の利用から砂浜以外は公園内北側の活動が少なく、周辺施設に隣接している展望デッキやマリンハウス周辺などの公園内南側に活動が集中している。「中年層」では、「青年層」と同様に公園内南側の利用が多く見られた。また、砂浜全域の活動も多くみられ、家族で来訪し、子供と一緒に「水遊び」や砂遊びなどの利用をしていると考えられる。「高年層」では、公園全域を利用して、「散歩」「休憩」等で水辺と間接的に触れる活動内容が見られる。

4. おわりに

本稿では、利用者の活動内容を捉え、現在の利用傾向を明らかにすることで、「青年層」では周辺施設から「何気なく立ち寄る」など二次の利用が多く、水辺一帯の情景を楽しむ傾向にあるが、「中年層」「高年層」は水辺に係る活動内容が上位を占め、年齢の増加とともに利用者は、水辺に直接的または間接的に触れる利用傾向にあることが分かる。

5. 補注及び参考文献

[1] 野中太郎：「お台場海浜公園の夏季における利用者の年齢層からみた活動内容と活動場所に関する研究」, 卒業論文, 2000 年

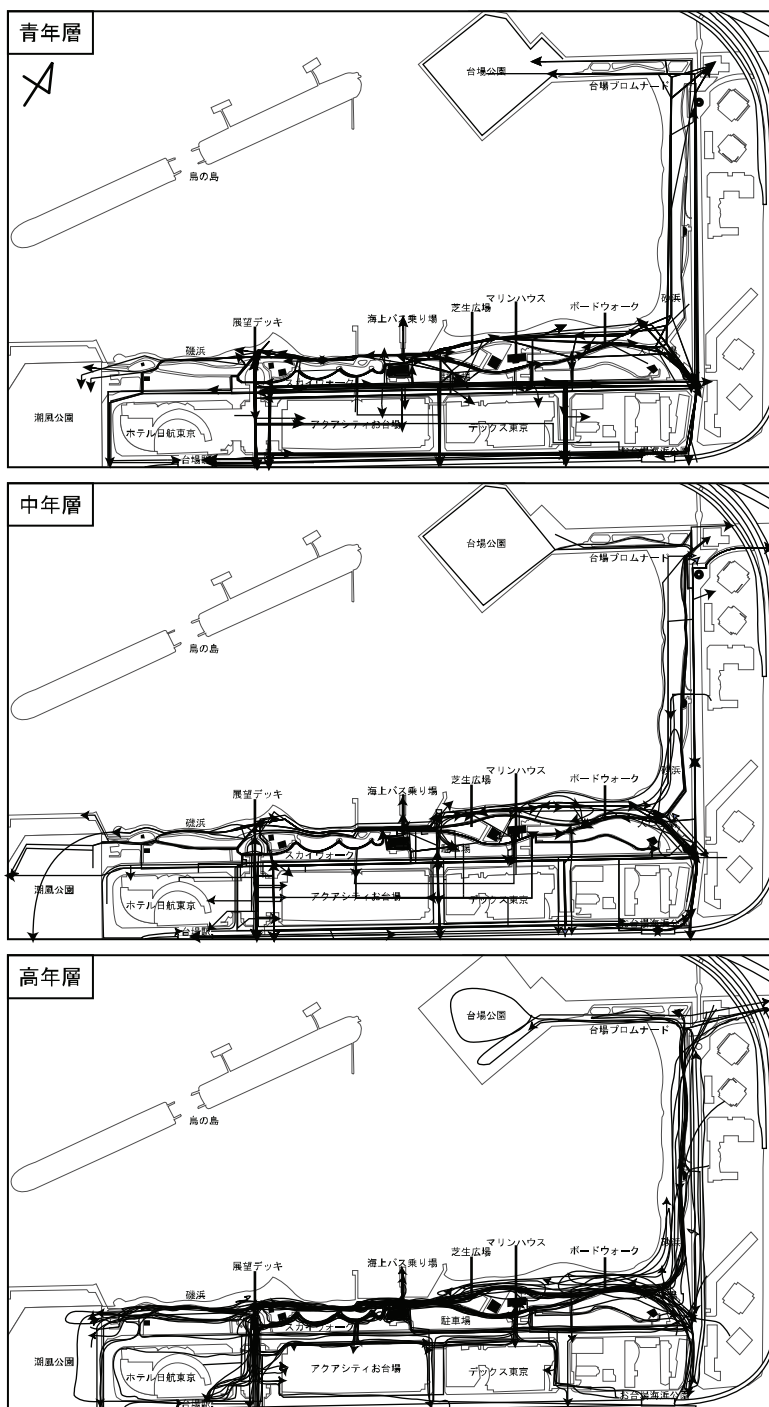


Figure 2. Each flow line activities by age group